

令和4年度学校経営計画

1. 教育目標

知・徳・体の調和がとれた健やかで、自主・自律の精神をもった主体的に生きる子の育成

2. 教育目標の具現化 『信頼される学校づくり』

- (1) めざす児童像 自律した子
 - ① よく考えやりぬく子
 - ② 心豊かな子
 - ③ 明るく強い子
- (2) めざす学校像 大好きな学校
 - ① 安心して生活ができ、学ぶことができる学校
 - ② 気持ちよい生活をおくることができる学校
 - ③ 明日も来たくなる学校
- (3) めざす教師の姿 信頼される教師
 - ① 先進的創造的な教育活動を実践する教師
 - ② 知性のある、豊かな教養をもつ人間性豊かな教師
 - ③ 自己の役割を理解し、学校運営に参画する教師

3. 教育方針

- (1) 基礎基本の確実な定着を図るとともに、子ども一人一人の学力向上をめざした教育を推進する。
- (2) 心の教育の充実をめざし、自分や仲間を大切にし、命を大切にする教育を推進する。
- (3) たくましく生きるために、体力の向上、健康の保持増進の意識や能力の育成、安全意識の向上をめざした教育を推進する。
- (4) 家庭や地域と一体となって子ども達を育む「地域とともにある学校づくり」を目指した教育を推進する。

4. 経営方針

- (1) 教職員一人一人が、教育者としての使命と責任を自覚し、自己研鑽に励みながら、互いに協力し学校運営に参画する組織体制をつくる。
- (2) 児童の実態にそった指導を実践し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- (3) 個に応じた生徒指導を推進するために、児童理解を深め、教育相談の一層の充実を図る。
- (4) 子どもと向き合う時間の確保のために業務の適正化、平準化を図る。
- (5) 学校運営協議会と連携を図り、地域の創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていく。

5. 中期目標と方策

- (1) 学校運営全般
 - ① 組織的な学校運営
 - ア 主幹教諭、各主任・主事が機能する学校運営を行う。
 - イ 職員会議、運営会議、主任会議、学年会の効果的実用的な運用をする。
 - ウ P D C Aサイクルによって学校のマネジメント能力を高める。
 - ② 学級・学年経営
 - ア 各学年レベルでのきめ細かな学習、生徒指導を学年主任を中心に組織的に行う。
 - イ 保護者、地域と学校との共通理解と連携協力で児童の自己実現を支援する。
 - ③ コミュニティースクールの推進
 - ア 学校運営協議会を学期ごとに開催し、学校運営の充実を図る。
 - イ 学校と家庭・地域が連携・協働していくための情報発信を行う。
 - ④ 学校評価の充実
 - ア P D C Aサイクルを意識した取組を重視し、改善が目標につながるサイクルの持続性を維持

する。

イ 対応策・改善策の検証を十分に行うとともに、評価結果の公表及び説明を十分に行う。

⑤ 学習環境の整備

ア 整然とした学習環境作りを徹底する。

イ 子ども達の学習意欲や興味・関心が高まる学習環境をつくる。

⑥ 教職員研修の充実

ア 子どもを中心とした学校研究を推進する。

イ 校内 OJT を活用し、実情に即した校内研修を推進する。

・若手教員早期育成プログラム

・ICT活用研修

・特別支援教育研修、生徒指導研修

ウ 年間を通じた自己研修を推進する。

・個人研修計画の作成及び継続的な実践

・人事評価による目標管理

⑦ 地域学校協働活動の推進

ア 地域との連携を積極的に推進する。

・地域人材の活用

・授業や学校行事における地域との連携

イ 開かれた学校づくりを推進する。

・感動のある体験活動を充実させ子ども達の活動の様子を発信

・学校の教育活動をホームページで公開

(2) 学校教育活動

① 金沢型学習スタイルに基づく学習の実践研究

ア 各教科の授業改善に基づく研究を推進する。

イ 主体的・対話的な学びを具現化する展開場面、確かな学びの具現化や学びの連続性をつなげる終末場面の工夫をする。

ウ 学習意欲のさらなる向上と基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を目指す。

エ ICT版金沢型学習スタイル実践と共有化を図る。

② 学力の向上

ア 基礎・基本の確実な定着を図る。

・学び方の基礎基本（話す・聞く・書く）と学習内容の基礎基本（読み・計算・書く）

・Rタイムの確実な実施と終末場面での適用問題

・朝学習の充実と徹底

・家庭学習の習慣化と質の向上

・チャレンジテストの充実

イ 個に応じた指導の実践を図る。

・県基礎学力調査、全国学力学習状況調査、評価問題の結果を生かした授業改善

・習熟度別少人数授業（算数科 高学年）の充実

ウ 総合的な学習の時間の充実を図る。

・地域との連携を軸に、郷土の理解と愛着を主要テーマとして持続発展教育の実践

③ 体力の向上

ア 運動量のある体育授業の実践

イ 体力アップ一校一プラン、スポチャレいしかわの確実な取組

ウ 見通しをもった体育的行事の実施

④ 生徒指導

ア 積極的な生徒指導の実践

イ 基本的な生活習慣の充実(身だしなみ、そうじ、あいさつ、時間厳守、返事)

- ウ 学年サポート会、児童理解の会の定期開催
- エ 保護者や専門機関との確実な連携
- ⑤ 特別支援教育
 - ア 児童理解の会の定期開催
 - イ 特別支援コーディネーターの複数配置と有効活用
 - ウ サポート委員会の充実
- ⑥ 小中一貫教育の充実と発展
 - ア 小中三校連絡会の定期開催
 - イ 「教育課程づくり」「授業づくり」「人間関係づくり」「組織づくり」の充実
 - ウ 小小、小中学校間の児童生徒の交流
 - エ 小中教員の相互授業参観
 - オ 合同研修会の実施
- ⑦ 道徳教育、体験教育の重視
 - ア 心に響く道徳教育の実践
 - イ 自然活動や体験活動を取り入れた授業の奨励

6. 今年度の重点的な取組目標と具体的方策

新型コロナウイルスの感染および拡大のリスクを可能な限り低減しながら、感染症予防策と学校教育活動の両立、教室環境や指導体制の整備に努める

(1) GIGA スクール構想の実現を目指す。

- ① 一人一台端末の有効活用に向け校内体制の構築
- ② 校内研修の開催
- ③ ICTの積極的な活用

(2) 業務の適正化、効率化を図り、さらなる時間外勤務時間の削減。

- ① 教職員の業務の平準化
 - ・教材・教具を学年で共通利用し、教材研究や準備の効率化を図る。
 - ・主任の業務を分担できるよう部会での役割分担の細分化に取り組む。
- ② 学校行事の見直しと会議の整理・統合
 - ・全員が集まる会議はできるだけ少なくし、時間も短くする。主任会や学年会や部会等、必要な会議は火・木曜校時に行い、放課後の各自の時間を確保する。
- ③ 定時退校日の柔軟な設定及び最終退校時刻（19：30）の厳守

(3) 学習の基盤づくりと基礎・基本の定着を徹底するとともに、「金沢型学習スタイル」に基づく授業を実践し、学習意欲のさらなる向上を図り、学力の向上をめざす。

- ① 学び合う学級集団づくり
- ② 1単位時間の授業スタイルの共通実践
- ③ 新学習指導要領実施において外部人材等を要請しての研修

(4) 児童理解に立った指導・支援に努め、一人一人が安心して認められる居場所づくりに努めるとともに、お互いに認め合える人間関係を形成できるようにする。

- ① 定期的な児童理解の会の開催
- ② 校内アンケートの実施

(5) 縦割り活動や児童会活動を充実させ、自分の役割に自覚と責任を持たせ、互いのがんばりを認め合い、達成感、満足感を味わわせる。

- ① ねらいを明確にした取組の推進
- ② なかよし遊びの充実

(6) 学校と家庭・地域が連携・協働するため学校運営協議会を推進する。

- ① 計画的な学校運営協議会の開催
- ② 家庭、地域への積極的な情報発信